

患者様へご協力をお願い

帯広厚生病院では、臨床研究として、保有する患者さんの情報を、「非根治切除となった食道癌症例に対する術後治療とその治療成績」に関する全国調査のために使用させていただきますので、ご協力をお願い申し上げます。

本研究への協力を望まれない患者さんや研究に関するお問い合わせなどがある場合は、下記の問い合わせ先へご連絡をお願いします。本研究に参加されない場合でも、不利益を受けることはありませんので、ご安心下さい。

[研究課題名]

非根治切除となった食道癌症例に対する術後治療とその治療成績

[研究の目的と意義]

局所進行食道癌に対して食道切除術を施行した際の術中所見や、手術後の検査で癌が体内に遺残していることが判明、あるいは強く疑われる場合（非根治切除と言います）があります。これまで臨床の現場ではこのような症例に対し、化学療法や化学放射線療法、あるいは放射線治療単独療法などの追加療法がしばしば行われてきました。しかし、こうした症例に対する治療戦略は未だ確立されておらず、その治療選択については一定の見解はありません。

非根治切除症例の頻度が少ないために過去の研究も少なく、また単施設の研究では症例数に限りがあるため、多施設共同研究による検討が必要です。今回日本食道学会主導で、カルテデータを用いた全国多施設共同研究を行います。現状を把握し治療成績を明らかにし、至適治療を探索することで、今後の治療成績向上につながり得るものと考えております。

本研究はがん研究会有明病院食道外科を主たる研究機関とし、共同研究機関より収集した匿名化データを用いて、解析を行います。

[研究の方法]

○研究実施期間

帯広厚生病院院長実施許可日～2025年3月31日まで

○対象となる患者さん

西暦2011年1月1日より2021年12月31日までの間に、食道癌に対する食道切除を受け非根治切除となった患者さん

○協力をお願いする内容

本研究では、過去の診療の記録より収集されたデータを使用させていただきます。具体的には、背景因子（年齢、性別、身長、体重、過去の病歴など）、治療内容（化学療法の内容、手術の方法、放射線治療の内容など）、臨床病理学的因子（がんの進行度、病理診断など）、短期成績（手術後合併症の有無など）、長期成績（再発の有無など）が含まれます。研究参加の有無により治療方針が変更されることはありません。

○研究の方法

帯広厚生病院を含めた共同研究機関が、過去の診療の記録より収集したデータを本研究の主たる研究機関であるがん研究会有明病院食道外科に提供し、解析を行います。

JCHO 大阪病院	出村 公一
滋賀医科大学	竹林 克士
四国がんセンター	柿下 大一
静岡県立総合病院	佐藤 真輔
島根大学医学部附属病院	平原 典幸
新東京病院	岡部 寛
千葉大学	松原 久裕
東海大学医学部消化器外科	小柳 和夫
東京医科歯科大学	藤原 尚志
東京女子医科大学病院	前田 新介
東北大学病院	石田 裕嵩
徳島大学病院 食道外科	井上 聖也
獨協医科大学埼玉医療センター	三ツ井 崇司
獨協医科大学上部消化管外科	中島 政信
鳥取県立中央病院	建部 茂
富山大学 消化器・腫瘍・総合外科	奥村 知之
虎の門病院	大倉 遊
長岡中央総合病院	河内 保之
名古屋大学	神田 光郎
奈良県立医科大学	松本 壮平
新潟県立がんセンター新潟病院	番場 竹生
新潟市民病院	桑原 史郎
新潟大学医歯学総合病院	市川 寛
八戸市立市民病院	丸山 祥太
浜松医科大学	竹内 裕也
兵庫医科大学上部消化管外科	篠原 尚
広島赤十字・原爆病院	山口 将平
広島大学病院	浜井 洋一
福島県立医科大学	河野 浩二
藤田医科大学・総合消化器外科	須田 康一
北部医療センター安佐市民病院	青木 義朗
北海道大学消化器外科 II	七戸 俊明
山形県立中央病院	野村 尚
山梨大学医学部第 1 外科	河口 賀彦
横浜国立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター 外科	國崎 主税